



複雑な色と塗装ラインの適用を より簡素化します。

カラーはますます複雑になり、調色や塗装が難しくなっています。

現在の塗装業者やボディーショップは、自動車のカラー塗装の複雑化という課題に直面しています。

複雑な塗装ラインの理解

ウェット・オン・ウェット塗装ラインは、従来の塗って乾かす方式の塗装ラインと比較して生産性を向上させ、効率を高めることができます。それを適用するには技術者の高度な技術が求められます。以下のような点に注意が必要です。



ベースのウェットコートを重ねて塗布する際に、流れ(垂れ)やたるみを作らないようにする。



これらの塗料は粘度が高いため、通常のベースコートよりも細かく霧化する必要があります。



ウェット・オン・ウェット塗装ラインはほかし作業(ブレンティング)が難しい場合があり、追加の工程や添加剤が必要になることがあります。



「ベースコートのはじき」、フィッシュアイに似た不具合は、ベースコートの過剰塗布によって発生する可能性があります。



ウェット・オン・ウェット塗装ラインを適用する際には、発生する可能性のある課題を十分に理解し注意を払うことで、手直しを避けることができます。これらの複雑な塗装ラインでは、適切なスプレーガンの設定と高度な塗布・ほかし技術が重要です。

複雑な色の適用

限定使用のトナー、特殊添加剤、超微細メタリックを含むことが多い複雑な色は、ボディーショップで再現するのが難しい場合があります。

これらの色を適用する際には、以下の点を考慮してください



塗装前の下地処理にはより細かい研磨材を使用すること。1つのサンドスクラッチャが仕上がりを台無しにする可能性があります。



一部の色に使用の限度があるトナーが含まれておらず、副資材費に大きな影響を与える可能性があります。



特殊添加剤は、特定の環境下で塗料が最適に性能を発揮するように性質を変化させるために使用されます。



メタリックカラーは厚く塗りすぎると色味がズレる可能性があるため、適切なスプレーガンの設定が不可欠です。

OEMによる特殊色の使用が拡大するにつれて、専門的な塗装技術と適切な機器の使用がますます重要になっています。また、これらの特殊色は塗布に時間がかかり、コストにも大きく影響するため、修理見積もりに正確に反映させることが非常に重要です。

塗装作業における適切な修理計画

車両技術の進化に伴い、OEMメーカーの塗装要件を満たす塗装作業、仕上がり品質の重要性がますます高まっています。これらの要件を満たさないと、ボディーショップや顧客にリスクをもたらす可能性があります。



スマートに塗装するなら、
**3M™ パフォーマンス
スプレーガンシステム**を

交換可能なノズルは、安定した転写効率を実現するよう最適化されており、複雑な色の塗装にも対応しやすくなっています。交換可能なノズルを交換することで、毎回新品同様のスプレーパフォーマンスを体験できます。



ミル厚さ(塗膜厚)の要件: OEMのポジションステートメントと技術情報は、特にセンサー周辺やパネル全体における重要なミル厚さの要件を指定しています。これらの基準を満たさないと、ADAS装備車両のキャリブレーション問題につながり、潜在的な責任と安全リスクを引き起こす可能性があります。



レーダー対応塗料フォーミュラ: 特定のトナーは長距離レーダーに影響を与える可能性があり、一部の塗料会社の調色ソフトウェアはユーザーにそのような問題を検出し、レーダー対応のフォーミュラを提示します。もしレーダー対応フォーミュラが利用できない場合、ボディーショップは作業を外注するか、OEM基準を満たす別の塗料ラインを使用する必要があるかもしれません。



修理不可能な領域と再塗装の制限: メーカーのガイドラインでは、修理が許可されていないエリアや、再塗装が制限されている部品(例:バンパー)について明確に定められています。これらのガイドラインを無視すると、重大な責任と追加費用が発生する可能性があり、一部の部品は再塗装ではなく交換が必要になることがあります。

OEM要件と標準作業手順(SOP)に従うことは、コンプライアンスとコスト効率のために不可欠です。ショップは、塗装前後に鉄系および非鉄系ミルゲージでミル厚(塗膜厚)を定期的にチェックする必要があります。変化するメーカーガイドラインを常に更新することで、質の高い修理を確保し、費用のかかるミスを避けることができます。



go.3M.com/jp-spraygun